

季刊 笛吹市探訪 笛吹市の道祖神祭りを巡って

1月に、市内では多くの地域で、道祖神祭りが行われています。その内、寒さ厳しい1月14日、石和町、芦川町を中心に道祖神祭りの準備の様子を取材してきました。その中で見えてきたことは、時代背景とともに変化していくお祭りの中で、伝統を守り伝えるために多くの人々が努力しているということでした。

道祖神とどんど焼き

道祖神は、集落の分かれ道や集落境などに祀られた神様で、旅の安全、縁結び、子どもの安全などを司る神として信仰されるとともに集落内に疫病や悪霊が入り込まないように集落を守る神として厚く信仰されてきた神様です。山梨県内では丸石や男根の形をした石を祀ったものが多く、長野県では男女の姿を刻んだ石の道祖神が多く見られます。

どんど焼きは小正月に地域の各戸が門松、注連縄などの正月飾りを持ち寄り、藁などで造ったお小屋とともに道祖神場で盛大な火を燃やす行事で、この火で焼いた団子を食べると風邪をひかないとい

われてきました。

今日では、時代の変化とともにその形式も簡略化された地域が増えてきましたが、地域に伝わる伝統的なお祭りの形を復活させ地域の皆さんの手で大事に守っているところもあります。

八田区、川中島区の亀引き

八田区や川中島区の道祖神祭りには松葉などで飾り立てた亀型の山車が登場します。寒風の中、「申せ、申せ、お祝い申せ」などの大



八田区の子どもたちによる亀引き



川中島区の福亀引き

きな掛け声とともに巨大な亀を子どもたちが区内を引き歩きます。石和町誌(第二巻第二章)にはこの「お祝い申せ」を紹介した昭和60年の新聞記事が掲載されています。そこには、「一月十四日、町内を子どもたちが山車を引き回す。江戸時代から行われているともいわれる伝統行事も昭和三十年代に中断したが昭和五十年ごろ川中島地区で復活、その後昭和六十年には七地区に広がった。」というように当時の様子が記されています。また、記事には『先輩、後輩のコミュニケーションが欠けている現代っ子にはまたとない祭り。今こそ広げるべきです。』とか、『地域の連帯感の形成には必ず役に立つ』といった取材を受け

た方々のコメントも掲載されています。

市部のオフネ

市部の仲町ではかつて藁やヒノキの葉で造った船形の山車を引き歩きました。今日では郵便局前の畑でオフネを燃やす形で伝わっており、多くの人々で賑わいます。オフネの舳先にはその年の干支の顔が飾られます。

平成26年の道祖神祭りの様子を取材する中で、寒い中にもかかわらず、次世代に伝えるために大人も子どもも笑顔でお祭りに関わっている姿がとても印象に残りました。



市部仲町のオフネ